お姉さんとジャルバくんの旅でも大活躍のキャンピングカー
たくさんの荷物を載せられるラゲッジルームがあるおかげでいろいろなアクティビティに挑戦できたようだ
そんなキャンピングカーならではのラゲッジルームをタイプ別にチェックしてみよう

キャンピングカータイプ別 ラゲッジ積載力チェック

01 BUS-CON VERSION

SAMPLE MODEL　Land Home［RV LAND］

マイクロバスの室内エリアにスペースを確保

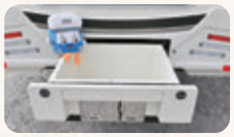
人を運ぶためのマイクロバスをベース車両にしているのが「バスコン」と呼ばれるタイプになる。本来であればイスが並んでいるスペースに居住空間を作っている。ボディサイズが大きいのでインテリアレイアウトに余裕があるのが特徴だろう。収納スペースはモデルよって大きく異なるが、ベッドの下などに確保されていることが多い。横幅、奥行きともに広く確保できるので、モデルよっては広大なラゲッジスペースを利用できる。

02 CAB-CON VERSION

SAMPLE MODEL　ZiL NOBLE［VANTECH］

スペースを有効利用したアイデア設計が可能

トラックをキャンピングカー用に改良したカムロードというクルマをベースにしているのが「キャブコン」。居住スペースを自由に設計できることから、メーカーごとの特徴が出やすいタイプだ。ラゲッジスペースはリアのベッド下に確保されていることが多く、サイドに扉が付いているモデルもある。また、ボディシャシーの隙間を活用して、収納スペースを作っているメーカーもあって、汚れたものなど、荷物を分類できるのは便利。



03 CAB-CON COMPACT

SAMPLE MODEL　TOM200［SEKISOH BODY］

扱いやすいサイズを優先しても収納力は◎

ハイエース、タウンエースなど、カムロードよりコンパクトなクルマをベースにしているのが「コンパクトキャブコン」と呼ばれるクラス。ボディサイズが小さい分、スペースの確保に工夫がみられる。コンパクトキャブコンもリアのベッド下にラゲッジスペースがある場合が多いが、ベッドマットを外して、広いスペースを確保できるようなレイアウト変更可能なタイプも多い。

04 VAN-CON IMPORTED CAR

SAMPLE MODEL　TWIN PLUS 640SLB ［ADRIA］

天井の高い輸入車らしい収納スペースの広さ

バンをベースにしたバンコン。輸入車の場合は車高の高いモデルが多く、室内空間にも余裕がある。バン本来の積載能力を発揮して、リア部がラゲッジスペースになっているタイプが多い。ベッドなども跳ね上げて、バイクなど大きな荷物を載せることもできる。

05 VAN-CON VERSION

SAMPLE MODEL　BADEN ［TOY-FACTORY］

居住スペースの広さと積載力の両立を果たす

ハイエースなどのバンをベースにした国産のバンコンは、高さがある程度限られているのがポイント。その限られたスペースを有効に活用するため各社で色々な工夫が施されている。快適で大きなベッドを確保しながらも、大きなラゲッジスペースを確保したモデルもあり、モデルごとの積載量が違うのが特徴でもある。自転車など大型のギアを積み込むのであれば、写真のような大きなラゲッジスペースがあるモデルをチョイスした方がいいだろう。

06 K-CAMPER VAN-CONVERSION

SAMPLE MODEL　Miniature Cruise ［OKA MOTORS］

床下全面にスペースを確保して収納力をUP

軽自動車のキャンピングカーは、バンやワゴンをベースにしたバンコンタイプと居住スペースを架装したキャブコンタイプの2つに分かれる。軽キャンパーのバンコンタイプは一般的な軽自動車の車内に家具を架装している場合が多く、収納スペースを確保するのが難しい。それでも、各社はアイデアを絞り出して、室内レイアウトを考えている。多くのモデルでみられるのが床下収納。高さは限られるが、床全面に広がったスペースは収納力も高い。

07 K-CAMPER CAB-CONVERSION

SAMPLE MODEL　Balocco ［FIELD LIFE］

荷物取り出し用のトビラを自由に設計可能

軽キャンパーのキャブコンタイプは居住スペースを自由に設計できるので、収納スペースもクルマによって大きく変わってくる。装備を充実させると、ラゲッジスペースも小さくなってしまう。例えば、タンクの大きさで荷室の大きさも変わってきてしまうのだ。しかし、軽キャンパーのキャブコンタイプであっても、ラゲッジスペースは必須。リアエリアにスペースを確保しながら、ボディにトビラをつけるなどしてラゲッジスペースを確保している。

08 TRAVEL TRAILER

SAMPLE MODEL　Emeraude 376 ［INDIANA RV］

フロントとシート下が定番ラゲッジスペース

キャンピングトレーラーの場合、けん引している時は人が乗れないので、室内全体をラゲッジスペースとして利用することも可能だ。しかし、旅の途中で休憩したいなど、停車してトレーラー内でくつろぎたいこともあるだろう。そんな時は本来の収納スペースを有効利用しなければならない。トレーラーには一般的に前側に収納スペースがある。また、ボディサイドのトビラから、シート下の収納スペースにアクセスできるモデルなどもある。

撮影協力：RVランド